

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(尾鷲高等学校 定時制)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		より豊かに社会生活を営むことができるよう、生徒一人ひとりの生きる力を高める学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	・基礎的な学力を習得し、さらに自ら学び続けようとする生徒。 ・誰にでも、気持ちのよい挨拶ができる生徒。 ・規律を守ることができ、仕事をする上で必要なコミュニケーション能力が身についた自立した社会人。
	【グラデュエーション・ポリシー】	
	ありたい教職員の姿	・チームワーク良く、明るく風通しのよい職場環境で、充実して業務に取り組む教職員。 ・多様な生徒の一人ひとりに応じた適切な指導に取り組むことができる幅広い能力を持つ教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒>卒業して進学や就職をしたい。 <保護者>卒業して進学や就職をしてほしい。学習指導と生徒指導を充実させてほしい。 <地域>将来地域で活躍する生徒を育成してほしい。				
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<table><tr><th>連携する相手からの要望・期待</th><th>連携する相手への要望・期待</th></tr><tr><td> <中学校>生徒に生きる力を身に付けさせて社会に送り出してほしい。 <保護者>卒業して進学や就職をしてほしい。 <進路先>挨拶ができ、コミュニケーション能力とやる気のある生徒に来てほしい。 </td><td> <中学校>生徒の基礎学力定着と学習意欲向上を一層図ってほしい。 <保護者>本校定時制の教育に一層の理解と協力をしてほしい。 <進路先>定時制の生徒の進学や就職の機会をさらに増やしてほしい。 </td></tr></table>	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待	<中学校>生徒に生きる力を身に付けさせて社会に送り出してほしい。 <保護者>卒業して進学や就職をしてほしい。 <進路先>挨拶ができ、コミュニケーション能力とやる気のある生徒に来てほしい。	<中学校>生徒の基礎学力定着と学習意欲向上を一層図ってほしい。 <保護者>本校定時制の教育に一層の理解と協力をしてほしい。 <進路先>定時制の生徒の進学や就職の機会をさらに増やしてほしい。
連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待					
<中学校>生徒に生きる力を身に付けさせて社会に送り出してほしい。 <保護者>卒業して進学や就職をしてほしい。 <進路先>挨拶ができ、コミュニケーション能力とやる気のある生徒に来てほしい。	<中学校>生徒の基礎学力定着と学習意欲向上を一層図ってほしい。 <保護者>本校定時制の教育に一層の理解と協力をしてほしい。 <進路先>定時制の生徒の進学や就職の機会をさらに増やしてほしい。					
(3)前年度の学校関係者評価など		引き続き学習に興味を持たせることで基礎基本の徹底に取り組み、自宅学習なども活用しながら、今後も粘り強く対応してもらいたい。またグループ活動や社会見学などいろいろな体験を通した活動をこれからも続けてもらいたい。 高校まで不登校だった生徒も多く入学していて、もし定時制がなければ中学卒業後に社会とつながることができなくなる子どもたちがたくさんいるので、とてもありがたい存在である。さらに高校卒業後に社会で居場所を作れるように「働くこと」に興味を持たせて、4年間のうちに外とつながるような工夫をお願いしたい。				
(4)現状と課題	教育活動	今後ますます、課題を抱えた生徒が増えてくると予想できる。これまで行ってきた基礎学力の定着に加え、人との接し方や社会で生きていくためのルールやマナーの育成も必要となると推測できる。尾鷲高等学校定時制という安心できる「居場所」としての日常的な活動を継続しつつ、インターンシップや社会見学など、多くの人と接する経験ができる場を用意し、体験しながら学んでいく環境も整えていく。				
	学校運営等	これまでと同様に、情報共有を密に行い、職員全員が共通理解をもって生徒や業務に対応できるようにする。また各自が自己の資質や能力の向上につながる研修に励み、研修等で得た知識を共有し、全体で利用していける仕組みを構築する。				

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・社会生活を営むうえで必要な ①基礎学力を定着させる活動を推進する。 ②規範意識を確立させる活動を推進する。 ③社会性を身につけさせる活動を推進する。
学校運営等	・教職員が生き生きと職務に邁進できるように、総勤務時間縮減に努める。 ・生徒と積極的にコミュニケーションをとり、複数の教職員が関わりながら、きめ細やかな教育相談や支援を行う。 ・教職員が同じ方向を向いて生徒に対応できるように日頃から情報共有を心がけ、指導方法の確認を行う。 ・多様な生徒への適切な指導ができるように研修を行い、教職員の資質向上を目指す。

4 求める生徒像

入学時に期待される 生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・毎日の授業を大切にする生徒。 ・目標に向かって、努力する生徒。 ・挨拶ができ、ルールを守って行動できる生徒。
-------------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の 定着	・基礎学力の定着を目指す。 ・生徒の学習意欲を引き出す授業の実施に努める。 【活動指標】 (1)各教科・科目の学習において、基礎的・基本的な部分の徹底を図る。 (2)生徒の学習意欲につながるよう授業を工夫し、個々の生徒に合ったきめ細やかな指導を行う。 (3)授業規律を確立するとともに、授業に集中できない生徒には粘り強く声をかける。 (4)将来の進路選択につながる学習を授業の中に取り入れることで生徒に卒業後の目標を持たせたり、集会で授業の意義を考えさせたりして、学習や授業に対する生徒の意識と意欲を高める。 【成果指標】 生徒アンケートで「入学してから自分の学力が伸びていると思いますか」に対して「大いに伸びている」、「伸びている」と答える生徒が60%以上となる。	【活動指標】 (1)基礎的・基本的な部分に重点をおき授業を行えた。 (2)授業を工夫し、生徒の学習意欲につながるよう努めた。また個々の生徒に合った指導を心掛けた。 (3)生徒アンケートによると、約80%の生徒が学習しやすい環境であると答えている。 (4)工夫はしているが、卒業後の進路選択や目標につながらないことが多いと感じる。 【成果指標】 左記の指標については50%であった。(未達成)	◎

規範意識の確立	・登校時や授業の合間など日常的に生徒への声かけを積極的に行い、生徒との信頼関係を深めながら、一人ひとりの学校生活の充実を図る。 ・問題行動やいじめは常に起こりうるという意識を持ち日頃から未然防止に努めつつ、発生時には迅速かつ組織的に対応する。 【活動指標】 (1)毎日、生徒の登校時に全教員で登校指導を行い、生徒一人ひとりと挨拶を交わしながら、声をかける。 (2)学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止と早期発見・対応に努め、きめ細かく相談や支援を行う。 (3)遅刻・早退・欠席等の多い生徒や不登校生徒には、声かけや面談を行い、家庭と連携して改善に取り組む。また必要に応じて、地域の関係機関と連携する。 (4)交通安全や学校敷地内喫煙・未成年喫煙の防止、スマートフォン等の使用マナー向上、薬物乱用防止などの学習や啓発に取り組む。 【成果指標】 生徒の問題行動やいじめの発生件数0件をめざす。発生した場合は、速やかに対処し、かつ継続的に対応していく。	【活動指標】 (1)毎日、登校指導を実施し、きめ細やかな声かけができた。 (2)それぞれの生徒の現状や人間関係を把握し、相談や支援を行った。 (3)家庭との連絡を密に行い、地域の関係機関とも連携して対応した。 (4)交通安全→警察と連携し「いのちの教室」を開催、喫煙防止→日常的に指導、スマートフォン等の使用マナー→引き続き対応していく。 【成果指標】 いじめの認知件数は2件。生徒からの申し出に速やかに対応し、SCやSSW医療とも連携した。丁寧な対応が必要なため、引き続き対応にあたる。(達成)	◎
社会性の育成	・社会人として必要な社会性と一般常識、仕事や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけさせる。 ・学校行事の充実、校外行事への積極的な参加に努め、生徒の良好な人間関係の醸成と高校生活の充実を図る。 【活動指標】 (1)登校時や職員室への入室時など様々な機会をとらえて挨拶を促し、コミュニケーション能力を高めるきっかけとする。 (2)日頃から生徒の努力を褒めることで、生徒の自信を引き出し、生徒が積極的に学校生活を送れるよう促す。 (3)在学中も働くことを奨励し、アルバイトを含め仕事に就いている生徒を増やし、生徒の仕事と学校の両立を支援する。 (4)生徒の進路希望に応じて個別指導を実施し、希望進路の実現を支援する。 (5)就労希望者や卒業時進路未決定者を支援し、卒業後もできる限りの支援を継続する。 【成果指標】 (1)卒業時に進学も就職もしない生徒を0にする。 (2)年間計画に沿って学校行事を着実に実施するとともに、定時制通信制教育関係の校外行事等に参加する。	【活動指標】 (1)こちらからの挨拶にはしっかりと答えられる生徒が増えたが、自分から挨拶できる生徒を増やしたい。 (2)日頃から生徒の努力を認め、声をかけ、生徒の自信を持てるように努めた。 (3)ハローワーク等と連携し、働きたい生徒に対して支援を行った。 (4)進路希望がはっきりしていた生徒に対しては、適切なサポートができた。 (5)「とりあえず卒業すること」を目標にする生徒はその次の進路や目標にまで進めなかった。対策を考えていく必要がある。 【成果指標】 (1)事情により進学も就職もしない生徒は0名(達成) (2)計画した学校行事はほぼ行うことができた。校外での「生活体験発表会」「スポーツ大会」にも参加することができた(達成)	◎

改善課題
・基礎的・基本的な学習に重点をおいて行うことができた。内容に対し満足する生徒も多いが、「簡単すぎる」と感じる生徒もいるため、どのように授業を行うか考えていくのが今後の課題である。 ・小学校、中学校で不登校だった生徒の多くは学校に来て毎日が無難に過ごし、とりあえず高校を卒業することに目標を置いているように感じられる。更にその先の卒業後には目が向かない生徒が多くいるので、低学年から「働くこと」や「卒業後の進路」について触れる機会を多く持ち、考えを深めるよう促していく必要がある。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
チームワーク向上と環境整備	・生徒の状況や各自の仕事の進捗状況等についての情報共有・情報交換を一層励行し、協力して仕事を進める。 ・教職員が生徒に向き合う時間を確保し、職務に邁進できるよう、総勤務時間縮減に努める。 【活動指標】 毎日、勤務時間の始めに打合せを実施する。必要に応じ、授業終了後、勤務時間終了前までにも実施する。 【成果指標】 (1)全教職員が毎日の定時退校を徹底し、毎月の時間外労働時間をほぼ0時間とし、月45時間・年360時間を超える時間外労働をする教職員の0人とする。 (2)すべての会議は勤務時間開始後、生徒の登校までに実施し、60分以内に終了する。 (3)全教職員が年次有給休暇を15日以上取得する。	【活動指標】 職員打ち合わせは毎日確実に行うことができた。また必要に応じて全体で情報共有を行うことができた。 【成果指標】 (1)毎日全員の定時退校を徹底することができた。また左記の時間外労働時間についても達成できた。 (2)達成できた。 (3)平均の年次休暇は16.2日であった。(1月末)職員7人中5人が達成できた。	◎
教職員としての資質向上	学び続ける教職員としての意識を高く持ち、校外研修や始業前の時間帯を生かしての研修に積極的に取り組む雰囲気高め、教職員としての資質・能力向上を図る。 【活動指標】 各自が参加した研修会や担当者会議の内容で汎用性の高いものを中心に、資料等の回覧を行う。 【成果指標】 年8回程度、職員会議後を中心に、時期に応じたテーマによる研修を行う。	【活動指標】 研修での内容は、口頭や回覧などで他のメンバーへの周知を行うことができた。 【成果指標】 研修実施3回(未達成)	◎

改善課題
コンプライアンスミーティングや人権研修などは個人でも全体でも行うことができた。教員の人数が少ないので、改めて「研修」としなくても毎日の打ち合わせや、日常の会話の中でいろいろな話題について話し合えるのが強みである。今後もその強みを生かして、情報共有や新しい話題の提供などを行い、生徒支援に役立てたい。次年度は教員研修をしっかりと計画し、実施したい。

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	・地域の多様な生徒を受け入れ、丁寧に指導していることをありがたく思っている。ぜひそれを今後も続けてほしい。 ・高校卒業を目指すだけでなく、卒業後のビジョンをもたせることは非常に重要である。進路指導を充実させ、将来的に地域を支える人材を育ててほしい。 ・授業や探究の時間を充実させ、生徒の心が前向きになるといいと思う。地域の教育資源の活用もしてほしい。
-----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	・入学後、生徒1人ひとりが自分の成長を実感できるような授業や行事の仕組みや声かけを検討し、実施する。そのためにも「総合的な探究の時間」の内容の見直しを行う。 ・いじめに関して、今後も丁寧に生徒と対応することで、より安心・安全な学校づくりを行う。 ・生徒が社会とつながりを持つために、校外学習の方法・内容の見直しを行う。より多くの人と接する経験ができる場を用意し、体験しながら学んでいく環境も整えていく。 ・生徒が「働くこと」や「卒業後の進路」について触れる機会をできるだけ多く作る。
学校運営について の改善策	・各自が自己の資質や能力の向上につながる研修に励み、研修等で得た知識を共有し、全体で利用していけるような研修機会をつくる。 ・研修内容に最新の教育事情や教育 DX に関するものなどをテーマにすることで、新しいことに前向きにチャレンジできる環境を整えていく。